

■みんなで考えよう！地域でできる防災

ワークショップ 地域の防災意識を高める方法は？

平成30年10月13日(土) 10時00分～12時20分

パーティセと4階 マルチメディアルーム

【グループA】

(参加者) 参加地域：下半田川町（水野（辰）、富田）、下品野（岡田、水野（勝））
市民活動団体（石原、田中、岡島、あゆみの会2名）、加藤（大学生）

意識を高めるには

<意識のたかまらない理由>

- ・東北や熊本の地震や西日本豪雨などの災害があったが、身近に感じられず他人事
- ・瀬戸の地盤からくる「安全神話」が災いしている
- ・瀬戸は今まで大きな災害に遭ったことがない。自分は大丈夫という思いを持っている
- ・1回でも災害を経験している人は防災意識が高いが経験してない人は分らない
- ・地域の自治会がまとまって防災に取り組めなくなった（高齢化）
- ・2年前に起きた被災地ことも忘れてしまっている → 「風化」

<意識を高めるには>

- ・他人事ではなく、自分や家族が災害にあったらどうなるかを考えるように防災訓練などで啓発
- ・防災に関して、市民の興味はどこにあるのか、住民の興味が増すような訓練内容を考える
- ・防災活動に、地域や地域同士のコラボを取りいれていく
- ・若い人の意識が低い → 災害を経験した同年代の話を聞く機会があればいい
- ・各家庭で親から子へ防災教育する（親子で話し合う）
- ・過去、瀬戸に起きた災害を思い出す（映画や災害が起きた、現在の地域をみる）

● 防災訓練の内容を考える。

- ・もっと行きたくなる防災訓練 → 名前をオシャレなものに
- ・楽しい防災訓練を考える
- ・地域にあった訓練を考える
- ・防災訓練を防災運動会にかえる
- ・楽しい防災運動会を各地域で企画して開催する
- ・防災運動会の子どもにも参加してもらおう（頭がやわらかく、発想が楽しい）
- ・避難訓練に景品（瀬戸市の方から）を出す
- ・災害時の不自由さの体験をする

■みんなで考えよう！地域でできる防災

ワークショップ 地域の防災意識を高める方法は？

平成30年10月13日(土) 10時00分～12時20分

パーティセと4階 マルチメディアルーム

【グループB】

(参加者) 参加地域：長根（稲垣、坂本）、本地（山崎）

市民活動団体（山内、水野、あゆみの会2名）・木村（大学生）

意識を高めるには

<スマホ・ICT>

- ・スマホで地域の防災を見られるように→市内や近隣の地域の状況も確認できるようにする
- ・IT防災リーダーの育成→中高生
- ・日常的に防災意識を高めるために防災アプリをスマホにしておく
- ・Google マップ等を利用した避難訓練の開催
- ・各種情報をデータ化しweb上で常に公開
- ・意識upは、スマホの使い方を高める→キーワードは「スマホ！」

<楽しく enjoy>

- ・防災訓練は楽しくなくては！
- ・防災イベントは楽しく、短く、半日で、参加しやすい時間、内容にする
- ・高齢者社会の訓練方法

<ヒトゴトではなくジブンゴト>

- ・災害を他人事と思わずに、我が身に起こる事と意識し、「自分ごと」にする
- ・地震に対する意識が低く、防災意識が上がらない
- ・災害が起きたらと日常から町内の人達と話し合う
- ・家庭内のDIGなど、家庭内で行動シミュレーションを話し合う
- ・町内での炊き出し訓練により信頼感の醸成

<啓発>

- ・瀬戸市配付の資料、リーフレットの活用を促す
- ・回覧板などで地域の危険個所を調査するアンケートを作る
- ・防災アンケートで住民の防災意識を知る
- ・地域で防災マップを作成（危険個所を知るマップなど）
- ・防災センター・減災センター等の見学会に地域ごとで参加（近所で親しくなる）
- ・便利になり過ぎた現代社会、災害でライフラインが止まったらどうするなど考える
- ・人材確保として、小中学生の取り込み。子どもの興味を引く内容で次世代（小中学生）に防災意識を植え付ける・「自宅での災害」を想定した訓練
- ・家族に必ず1人防災運動会に参加してもらい、意識を高める

■みんなで考えよう！地域でできる防災

ワークショップ 地域の防災意識を高める方法は？

平成30年10月13日(土) 10時00分～12時20分

パーティセと4階 マルチメディアルーム

【グループC】

(参加者) 参加地域：道泉（加藤（義）、黒川）、菱野（加藤（勝））
市民活動団体（高桑、市川、森井、あゆみの会3名）

意識を高めるには

- ・ 防災運動会
- ・ 災害図上訓練

< 訓練・運動会 >

- ・ 訓練は片肘張らず、楽しくやる方法を考える
- ・ 防災運動会は競争でなく、防災の意味の理解を深める
- ・ 煙体験、
- ・ 担架運び訓練はダミー人形を運ぶのではなく、人を運ぶ（人は大事に扱う）
- ・ 幼児から高齢者まで誰でも楽しく参加できる工夫をしていく

< 活用 >

- ・ 他の地域の見学をし、良いことはマネをする
- ・ 他の人の非常持ち出し袋の中味を参考にする

< 助け合い >

- ・ 『自助』は、まず自分のことは自分で守る
- ・ 『公助』は、「向こう三軒、両隣」の精神で
- ・ 日頃から、ご近所さんとのつながり
- ・ 地域において住民の確認（民生、社協に協力）
- ・ 余裕があれば、協力、人助けをする

< 人材さがし >

- ・ 防災リーダーの育成
- ・ 防災は1人ではできない、仲間づくりをしていく。

< 課題 >

- ・ 防災に関心を持ってもらう
(防災に関するイベントなどを開催したい)